

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100019		
法人名	株式会社 さくらメディカル		
事業所名	グループホーム松風みはま 【ユニット名:さくら】		
所在地	和歌山県日高郡美浜町和田824-9		
自己評価作成日	平成23年7月22日	評価結果市町村受理日	平成23年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092100019&SCD=320&PCD=30>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念に沿った介護が出来るように日々努めています。 ・笑顔が引き出せるような介護を心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲に田園が広がる静かな環境の2階建てのホームで、1階部分には認知症対応型デイサービスが併設されている。法人が隣に新たなグループホームを開設した今年2月に、幹部の職員が交代して新体制となり、2つのグループホームと通所の事業所が連携することでケアの内容に幅を持たせている。5月からは運営推進会議も合同で開催され、美浜町、日高町、日高川町、由良町の担当課の職員も出席して運営内容についての具体的な討議が行われ運営に反映させている。入居者や家族の思いを汲み取り、職員の意見も積極的に取り入れてケアの質の向上につなげ、それぞれの入居者が仲間と共に生き活きと生活する姿がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基にユニットで「ゆったり楽しくみんなでいこか」という理念を作り、職員全員で理解し共有することを介護目標としてより良いケアに向けて日々取り組んでいます。	各ユニットごとに親しみやすい理念を作り居間に掲示している。理念にある言葉の表面だけを見てしまうと地域密着型サービスとしての意義について不明瞭となる場合もある。	理念に集約されている地域密着型サービスとしての意義について、言葉を足して繰り返し伝え確認しあっていくことで、職員一人一人の自覚がより高まることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の敬老会への参加や老人クラブでの食事会への参加も支援しています。また、ホーム周辺で仕事や散歩をされる方と声を掛け合ったりしています。	毎年近くの保育所の七夕会に招待されている。地域内の敬老会や老人クラブの行事への参加を支援し、また、隣にある同法人のグループホームで陶芸教室を開き、地域の人々にも参加を呼び掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族や、地域の方々に向けた研修を計画しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施し、会議で出した意見、出された意見は職員間で共有して取り組んでいます。	法人の3事業所が合同で開催し、4つの町からの担当者も出席している。ヒヤリハット報告書を提示して事業所内での危機管理について話し合うなど、ケアの質の向上に活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の生活状況等について本人、家族の不安を解消するため、市町村の担当者と随時相談を行いながら進めています。	運営推進会議に町の担当者が出席して情報交換や意見交換が行われている。法人の統括部長が機会があるごとに町役場に出向いて連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に研修する機会を持ち職員全員が十分理解し、契約時に身体拘束をしない旨を説明し同意して頂いています。	直接的な身体拘束はもとより、言葉による拘束も行わないように気をつけている。薬物拘束の回避を計り向精神薬の使用を医師と相談して減らし、使わなくてもすむような支援に取り組んでいる。	頻繁に外へ出ようとする入居者のためにセンサーを使って音が鳴るようにしているが、それに頼ってしまうことなく、見守りの体制を充実させることが望ましい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令についての情報を収集し、定期的に研修の機会を持っています。また日々のケアでは入浴時や清拭時に身体状態を観察し異常がないか、虐待がないか見過ごすことがないように努めています。			

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての情報を収集し知識を習得するよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書については入居時に十分説明を行っています。その際に、一方的な説明にならないように、疑問点や不安なことについて家族からお聞きし、納得して同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族と日頃から十分なコミュニケーションを図り、話せる環境、関係作りに努めています。訴えることが出来ない入居者様には会話の中で聞き取りを行うようにしています。	意見箱は設置しているが余り活用されておらず、時々アンケートをとって意見を集めるようにしている。家族には毎月の領収書と一緒に入居者の写真をそえて状況を知らせ、来所時に話ができるように心がけている。	家族がさらに話しやすい様に家族会が持てることを今後期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットでユニット会議を行ない、職員の意見、提案を聞く機会を設けています。また、職員の意見、要望箱も設置しています。	ケア会議での職員の意見が良く出されている。会議の場で意見を出すことが苦手な職員には文章で意見を表せるような機会を与え、全員から意見を聞けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、管理者、ユニット代表者は、報告や評価をこまめに行い互いの役割に対する理解を深めていくよう努めています。また、各職員に役割や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年2名、実践者研修、管理者研修への参加を推進し、資金援助を行い社員の質、能力、知識向上に積極的に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社の理学療法士が介護職員の為に介助方法やリハビリの勉強会を定期的に実践し、他施設にも参加を募り交流しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人との面接を数回行うことで馴染みの関係を築きながら、介護職員の意見や提案を取り入れ、不安なこと、求めていることを受け止める努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に十分な時間をかけて面談やご自宅を訪問し、家族との信頼関係を築きながら、不安なこと、求めていることを受け止め、我々に出来ることを提案し、協力し合える関係作りが出来るよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居、相談の際には本人、家族のニーズを見極めて適切なサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今までの生活歴を知り、本人を尊重することで多くのことを学び、信頼関係のもと支えあう気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを共有し、協力を得ながら生活して頂けるよう努め、また本人には手紙を書いていただくなど家族関係が薄れないよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人が面会に来られた際にはゆっくりと過ごして頂けるように心がけています。また、ドライブ等で入居者様の馴染みの地域、場所に出かけ、思い出を聞かせて頂いています。	美容院等、入居者のなじみの人や場所と、できるだけ繋がりが持てるように支援している。入居者の思いに沿ってなじみのところへ個別に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作りや調理など、共同作業ができる時間を積極的に取り入れ、職員が間に入りコミュニケーションがとれるよう心がけています。また、入居者様同士もお互いの居室を訪れて交流されています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談には応じています。また、退去された本人に面会に行ったりと、関係を継続していけるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と十分コミュニケーションを図り、継続した信頼関係の中で、思いが聞き入れられるように努めています。	入居者の声に耳を傾け、必要に応じてセンター方式を活用して記録している。思いを言葉に出しにくい人には、相性の良い職員が話しかけて関わりがもてるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族より、本人の今までの生活リズム等の情報をできる限り収集し、それを基に入居後は本人や家族の意向を、状況に応じてプランに取り入れられるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族やケアマネジャー、友人等より情報を収集し趣味や趣向を取り入れ、残存する機能の低下を予防し、メリハリのある生活リズムを築き、継続できるよう支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は主治医や薬剤師に対し、こまめな報告、相談を行っています。その都度、本人、家族の意見を取り入れ計画を作成し、本人の状態の変化に柔軟に対応できるよう随時ケアカンファレンスを行っています。	初めての入居者や変化のある入居者には「24時間生活変化シート」も活用し、業務日誌の内容から抽出した課題を職員間で検討して、一人ひとりの現状に即した具体的でわかりやすい計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務記録を基に日々の申し送り時に、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の自宅に職員と共に訪問したり、病院への受診支援を行っています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の協力や、地域の警察官の方にも随時訪問をお願いしており、顔なじみになっていただいています。また、様々なボランティアの方々にも訪問していただき、ご協力いただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される主治医に依頼し、定期的な訪問診療や定期受診を実施しております。	本人家族の希望の医師をかかりつけ医としている。受診は主に家族が受診しているが職員が受診を支援する場合もある。協力医がかかりつけ医の場合は定期的に往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、介護職と看護師が連携して健康管理を行い、必要時は主治医と相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には出来る限り面会の時間を作り、不安や不穏を軽減し、スムーズに治療ができるよう支援することにより早期退院につなげています。また、医療スタッフと連携し退院後の対処法など情報交換を行ってしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、信頼関係が築き上げられてから本人、家族に終末期のあり方について話し合う機会を設けております。入居時に説明を行っていますが、身体の変化によりその時点で出来ること、出来ないことを家族や主治医と連携を図りながら取り組んでいます。	そのつど家族と話し合いをしている。協力医とは常に連携がとれ、法人内に兼務の看護師も配置されているので、医療面で幅広い対応ができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に日高広域消防本部の協力で、救急車が到着するまでの応急手当を学習する機会を設けています。また、事故発生時の連絡方法については、職員の目の届くところに掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に警察、消防、役場へ通報し、協力が得られるよう働きかけをしております。また、日高広域消防本部の協力で、火災時の避難訓練を定期的に行っております。	関係機関と連携を図っているが、地域との話し合いはあまり出来ていない。備蓄を行っているが、田んぼの中という立地上、水害があれば孤立するおそれがある。	水害時の避難経路の確保、地域住民との協力を今後期待する。

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は周知徹底し、対応については一人ひとりを尊重して声かけを実践しています。	プライバシーを確保しプライドを傷つけない接し方をするように努めて、本人の状況に合わせた声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、散歩、買い物の機会を多く設け、買い物の際には食べたいものなどの自己決定をしていただいています。また、入浴、食事なども本人の希望する時間帯やペースに合わせた支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を基に職員全員が「個別のペース」を大切にしよう心がけております。日々入居者の希望を聞き、出来るだけ希望に添えるよう支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設以来、入居者様の家族のご好意によりボランティアで理美容をしていただいております。そのため、美容院へ行く方は数名にとどまっていますが、希望に応じ本人の望む店に行けるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には、嗜好を聞いて取り入れております。また、料理が好きな方には積極的に参加していただき、作る楽しみも支援しております。職員も同じ食事をし、会話を楽しむよう心がけております。	陶芸教室で焼いたお茶碗や湯飲みを使い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。誕生会にはビールも用意してにぎやかに祝っている。食事の後は炊事場まで食べた食器を運ぶ入居者もみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を立てる際、バランスよく様々な食品が摂取できるように努めています。また、水分や食事量については、職員全員が把握できるよう毎食後チェックし記録しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕に口腔ケアを実施しております。また、外出後にうがいを促しています。		

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの残存能力を見極め、排泄パターンを把握して、パターンに沿った誘導を行い、快適な排尿、排便が行えるよう支援しています。	尿漏れパッドの当て方を工夫するなどして、入居者ひとり一人に合った対応をして、できるだけオムツを使わずに排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1800ccを目標とし、水分摂取の勧めと1日の水分量の把握、食物繊維の摂取、体を動かすレクリエーション等を取り入れています。便秘にならないよう、おやつなども工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望時間に入浴を実施しています。入浴拒否される方に対しては、体調の良い時間帯に誘導したり、それでも拒否される方については清拭、足浴等実施しています。	入居者は、ほとんど毎日入浴している。各ユニットごとの風呂以外に、隣接するデイサービスの風呂を利用することもある。中々眠れない入居者には足浴支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に対してお茶を勧めたり、会話をしながら気分を落ち着かせ、ゆっくり過ごしていただくような支援をしています。休息に関しては、体調不良でないかぎり本人の意思決定に沿って自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し、職員一人ひとりが内容を理解し間違いのないように管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り等の家事への参加、趣味の洋裁や編み物、畑仕事など思い思いの時間を過ごされています。嗜好品に関しては主治医、家族の了解のもとで、お酒やおやつ等も楽しんでいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を毎日散歩される方や、一時的な帰宅、ドライブを楽しむなど日々入居者様の健康状態に配慮し支援を行っています。また、季節ごとに花見やピクニック等日頃出かけられない場所を入居者様を含め、皆で決めて出かけています。	月2回のドライブや、年2回の花見等の行事、買い物支援等行っている。ホーム周辺は車も少なくゆっくり散歩を楽しむことができる。隣のグループホームでは陶芸教室が行われる日もあり、身近な訪問場所となっている。	

【事業所名】グループホーム松風みはま ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力により小額の小遣いを本人が所持管理し、日々の買い物時には本人の欲しい物が買えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の思いを引き出し、家族宛に手紙を書いていただく等、疎遠にならないよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者は体温調節が困難な為、室温は常に注意しています。西日が強い時間帯はカーテンで光の調節を行っていますが、出来るだけ季節を感じていただく為、外の景色が見れるようにしています。	居間の畳のスペースには枕やクッションが置かれ、横になってくつろいだり、また、腰を下ろすのに丁度良い高さなので腰掛けて談笑する姿も見られる。椅子やソファは中央の広い場所に配置されている。	椅子やソファの配置を工夫し、入居者が一服したり座って景色を見るなど、一人になったり気の合った人と過ごしたりできる場所の確保が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースには座椅子や枕を使用して昼寝をされる方や、畳以外にもソファを準備し、談話スペースを多く取り入れ一人ひとりの自由な過ごし方が出来るよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みの家具や寝具を持参していただき、家族と本人の写真を壁に飾っています。	陶芸教室で作ったネームプレートや写真など思い思いの表札を入りに掲げている。畳の部屋もあり、ベッドや布団も各自のものを持ち込んで、テレビや観葉植物等気に入ったものの、使い慣れた物を置いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動、入浴時は安全で本人の力が十分活かされるように工夫、介助しています。家庭での日常的な作業として家事や調理等を一緒に行い、説明を必要とする際には時間をかけるよう努めています。		